「会員短信 62」

「くらやみ祭」　　大林和代

今年は、コロナの五類移行により、例年通りの祭が四年ぶりに行なわれました。本格的な再開に、祭好きの私は各所を回りました。

一年の中で最も大きな祭は、東京都府中市にある大國魂（おおくにたま）神社の「くらやみ祭」です。祭の呼称は、貴いものを見る事は許されないという古来からの儀礼により、人目に触れる事のない暗闇で神事が行われてきたことに由来します。

壮大な祭で、千年以上の歴史があると言われています。大國魂神社は武蔵国の総社として武州六社明神を祀っており、「武蔵総社」「六所宮」とも呼ばれています。創建千九百年と言われる古社のこの例大祭は、四月三十日の神事に始まり五月六日まで行われ、東京都指定無形民俗文化財にもなっています。

祭の最大の見所は、「おいで」と呼ばれる神輿渡御です。五日の午後六時に、花火の合図とともに、全高三メートルほどの大太鼓六張が打ち鳴らされます。八基の神輿は古式の行列を整え、白丁を身にまとった担ぎ手と大太鼓に導かれて、次々に市内にくり出し、御旅所まで渡御します。沿道は数十万人の見物客で沸き上がり、祭は最高潮を迎えます。

今年はこの祭を見て、やっとコロナ禍の三年間の空白が一挙に埋まり、この間の鬱屈した気分が発散されたように感じました。

つぎつぎと風にほどかれ神輿綱
人人の隙間に覗く神輿かな
太鼓打つ子らそれぞれに面の汗

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。